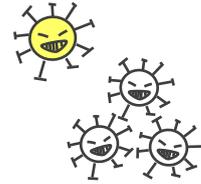


感染症に気をつけよう!

2018年【9月号】

横浜市内の感染症 流行状況



感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】 ← クリック
風しん**	多発	急増	7月下旬頃から、首都圏で流行*しています。8月下旬以降、市内でも増えています。【'15.6号】
腸管出血性大腸菌感染症**	多発	増加	O157等が原因で、食中毒も報告されています。例年、初秋まで多いです。【'17.9号】【チラシ】
A型肝炎*	散発	横ばい	ウイルスに汚染された食品、性的接触などによって感染します。報告が多い状態です。【'14.4号】

今、気をつけたい感染症 風しん



どんな症状が出るの？

- 原因は風しんウイルスで、発熱・発疹・リンパ節のはれが特徴です。重い合併症が起きて、入院が必要になる場合もあります。
- 妊婦が感染すると、お腹の赤ちゃんにも感染して、心疾患・難聴・白内障を主な症状とする【先天性風しん症候群**】になる可能性があります。

予防のためには？

- ワクチンが有効です。子どもには定期予防接種(無料)があります。
- 19歳以上の市民には一定の条件の方に、横浜市風しん対策事業(予防接種と抗体検査)も実施されています。
- 妊娠中は接種できないので、パートナーがワクチンを受けることは、生まれてくる赤ちゃんを守ることにもなります。

かかったかなと思ったら？

- 万一、風しんを疑う症状が出たら、必ず事前に医療機関へ電話してから、指示に従って受診しましょう。



【参考ホームページ】

*:国立感染症研究所 **:厚生労働省 横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 【横浜市感染症情報センター】